

キリストの「武士」(ひよこ雌雄鑑別師) 安部 哲物語

安部哲は1913年(大正2年)福岡県古賀市で代々浄土宗の家に生まれ、若いときには浄土宗の修業を重ね、在家の僧の資格も取った。

生来、あらゆる点において秀でた才能の持ち主であった安部は、ひよこのオスメスを瞬時に見分ける鑑別師としてもたちまち頂点を極め、3度までも世界一となるほどであった。

日本人の手先の器用さ、黒い瞳は鑑別師に非常に有利に働くようで、海外にも目を向け、ヨーロッパでの拠点をノルウェーに置くこととし、日本と往復する生活が始まった。

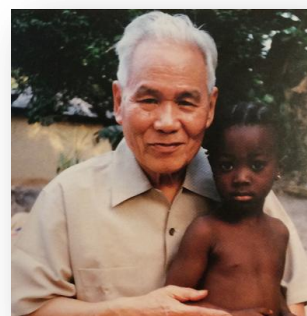
その頃、かつて日本に宣教師として赴き、日本語の堪能な宣教師に出会った。熱心に勧められたのがきっかけで聖書を3年学んだが、どうしても腑に落ちないのは「イエス・キリストを信じるだけで救われる」ということであった。信心を重んずる浄土宗を学びはしたが、それにしても安部にはキリストによる救いは安易過ぎるように思われたのである。

ところが1965年のある晩、自分が地獄に突き落とされて、ぐんぐん奈落の底に落ちていく幻を見た。あまりの恐ろしさに、無我夢中で叫んだのは、長年口ずさんできた「南無阿弥陀仏」という経文ではなく何と「イエス様、助けてください、助けてください」という、自分でも驚くことばであった。するとたちまち光の中に入れられて地獄行きを免れた。

夢とも現実とも分からないこの経験から、安部は、救いはただイエス・キリストにのみあることを体験し、直ちに信仰を持ったばかりか、すぐにこのイエス・キリストのことを世界各地に伝えよう、との決心が与えられたのであった。

1960年代当時、宣教師という立場では入国できなかった共産圏諸国にも、鑑別師としての安部の傑出した技能は歓迎され、国賓並みの待遇で税関も無審査で入国できるほどであった。そこで聖書をひそかに持ち込んで配布し、共産圏伝道の草分けの一人となったのである。

今回は、1970年代から80年代、日本の高度経済成長に伴い、海外に移住した多くの日本人にも伝道し、共産圏での投獄すらものともせず、あらゆる方法で福音を伝えようとした稀代の信徒伝道者、安部哲の生涯をご紹介します。



シエラレオネにて

記

1. 日時 : 2018年2月9日(金) 10:30 AM より
2. 場所 : ゴスペルホール(電話 026-295-6705)
3. 講師 : 尾崎富雄(ゴスペルホール代表)